

平成 30 年漁期のニゴロブナの成熟状況

根本守仁

1. 目的

ニゴロブナは主にふなずしの原料として用いられ、抱卵した雌で商品価値が高い。このため、まだ抱卵していない雌や排卵した雌をできるだけ獲らないように、資源管理の取り組みとしては、漁期を 1～5 月としている。平成 30 年漁期について、漁業者から銘柄「オス」の割合が多いという意見が多数あったため、漁期の盛期である 3 月と終盤である 4 月下旬に漁獲物の成熟状況を調査した。

2. 方法

調査は、琵琶湖北湖北東部の水深 45m 以深の水域で刺網により漁獲されたニゴロブナを対象に実施した。調査したのは、平成 30 年 3 月 7 日の漁獲物 105 尾および 4 月 29 日のもの 93 尾である。標本は、冷凍保存とし、体型を測定後、開腹して性別を判定し、生殖腺の発達状況を観察した。年齢査定は、鱗の輪紋の乱れを観察することにより行った。

3. 結果

年齢および性別の個体数を図 1 に示した。漁獲されたニゴロブナは 1～7 歳であった。雌

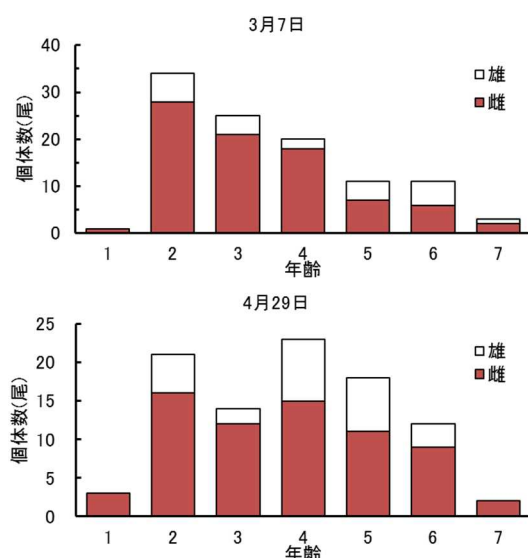


図 1 漁獲されたニゴロブナの年齢および雌雄別の個体数

雄の割合は、いずれの日および年齢においても雌の割合が高く、3 月 7 日では 79%、4 月 29 日では 73%が雌であった。

雌の成熟状況について、生殖腺の外観から、未発達：透明で卵粒が見えない、成熟 1：うすだいたい色で卵粒が見える、成熟 2：不透明な黄色で卵粒が見える、成熟 3：透明な黄色で卵粒が見える、の 4 段階に区別された。なお、これまでの調査結果から、成熟 3 が銘柄「メス」と扱われることが明らかとなっている。雌の年齢別の生殖腺の発達状況を図 2 に示した。銘柄「オス」として扱われる未発達～成熟 2 が漁獲物に占める割合は、3 月の漁獲物では 45%であった。昨年同時期では 35%であったことから、漁業者からの報告のとおり成熟が遅れていた。4 月の漁獲物ではこの割合が 25%であったことから、3 月以降に成熟が進んでいたことが明らかとなった。

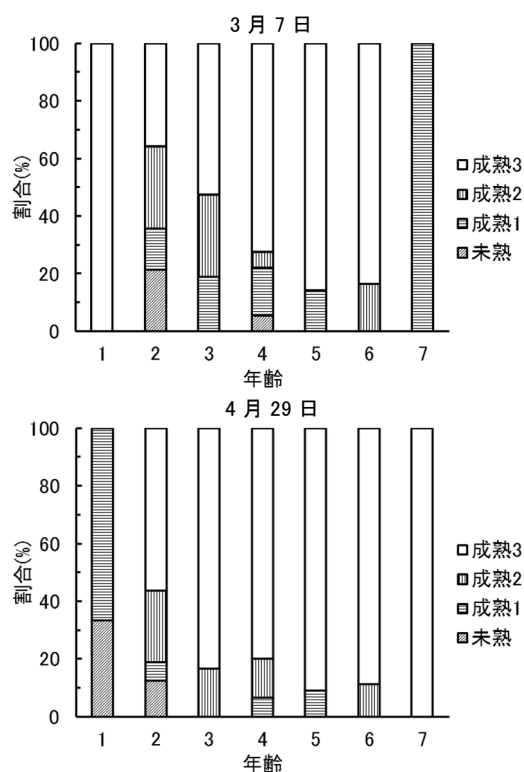


図 2 刺網で漁獲されたニゴロブナ雌の年齢別の生殖腺の発達状況

本報告は資源管理協議会からの調査委託事業の中で行われた成果の一部である。